

企業から見る産業新時代を支える 技術者像と人材育成

2017年12月22日

富士通株式会社

常務理事

人事本部副本部長（人材開発担当）

梶原 ゆみ子

1. 時代認識

2. 新しい時代に求められる技術者像

3. 富士通の人材育成の取り組み

4. 課題

1. 時代認識

2. 新しい時代に求められる技術者像

3. 富士通の人材育成の取り組み

4. 課題

Society 5.0

- サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより、
 - 地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで、経済的発展と社会的課題の解決を両立し、
 - 人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる、人間中心の社会
-
- ICTの役割は、業務効率化からICTによる知識創造にシフトしてきており、市場（現場）との対話が一層重要になる
 - 従来のように1社で全てを開発できる時代ではなく、会社の枠を超えて多様な知恵を集め、Co-Creation（共創）、オープンイノベーションが求められる
 - 開発プロセスは従来のウォーターフォール型だけではなく、市場（現場）と対話をしながら進めるアジャイル型も求められる
 - ソフトウェア化が進む時代（SDx）

1. 時代認識

2. 新しい時代に求められる技術者像

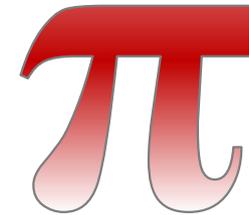
3. 富士通の人材育成の取り組み

4. 課題

1. π 型人材

リベラルアーツ・人間力

異分野領域の知見



深い専門性

① 深い専門性

- ICT分野は技術革新のスピードが際立っており、それをリード、フォローするためには、自らの専門領域を常に深めることが不可欠

② 異分野領域の知見

- 一つの専門領域だけでは解決できず、複雑で時にはトレードオフの選択を要する難問が多数出現してくるため、異分野にも知見を拡げることが必要

③ リベラルアーツ・人間力

- 技術は、社会を豊かにし幸せをもたらすために
 - 社会的課題の解決、共通善の視点からの判断
 - 多様な価値観を受け入れられる柔軟性、コミュニケーション力が必要

これからの技術者像②

2. 学び続ける人材

【何を】

- 専門領域の技術（技術革新の創出、最新技術のフォローのため）
- 異分野領域（全体を俯瞰する力、独創的な企画力を身につけるため）
- 社会情勢（課題を発見し、技術を適切に活用するため）

【どこから】

- OJT
- Off-JT（リカレント教育）
- お客様、市場、コミュニティ

これからの技術者像③

3. コミュニティ形成力のある人材

- 1社でできることには限界があり、市場（現場）との対話を通じてイノベーションを起こすオープンイノベーションの時代においては、コミュニティの多様なメンバーと共創することが重要
- 自らの想いや技術の価値を発信し、目的を共有し共感されるコミュニティを形成することが必要

1. 時代認識

2. 新しい時代に求められる技術者像

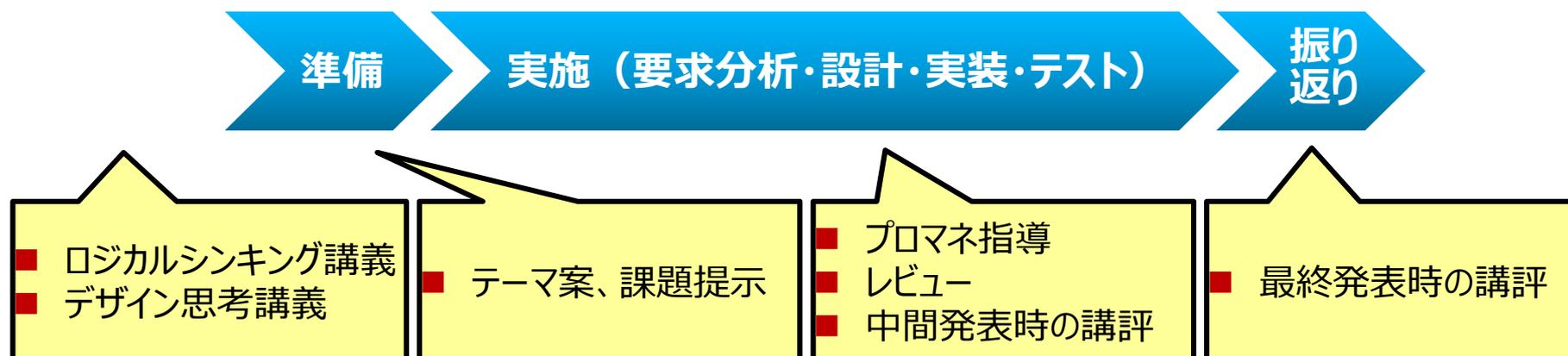
3. 富士通の人材育成の取り組み

4. 課題

【背景】

- 次のような理由から、PBL（Project Based Learning）を採用し、その支援を求めてくる大学が増加
 - 自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせたい
 - コミュニケーション能力、チーム力、マネジメント力を高めたい
 - 現実の課題を題材にチームで取り組むことで、各人の知識・専門性を統合して課題を解決する実践的な体験を積ませたい

【支援内容（CeFILの場合）】



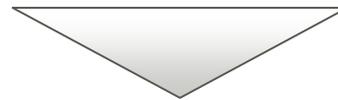
採用に当たり富士通が求める人材像

■ 2012年～

- ✓ 好奇心を持って行動できる
- ✓ 継続して社会人基礎力を伸ばすことができる*
- ✓ 富士通に共感できる

理工系の学生については、専門分野の知識や研究手法の習得等を重点的に確認

* 社会人基礎力：2006年に経済産業省が提唱



■ 2017年～

- ✓ 未知なるものに対して、楽しんで取り組むことができる人
- ✓ 志を持って、挑戦・探求し続けることができる人
- ✓ 困難なことに対して、最後までやり遂げることができる人

1. 時代認識

2. 新しい時代に求められる技術者像

3. 富士通の人材育成の取り組み

4. 課題

技術変化のスピード



人材育成のスピード

新技術の普及
のスピード



社会規範の策定
のスピード

海外のスピード



日本のスピード



FUJITSU

shaping tomorrow with you